

【学校名】北海道登別青嶺高等学校
【活動の名称】 教育相談
【活用した資源】「ほっと」、「Q-U」
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

(項			
目イ			
観点③			
環境づ			
くり)			

【活動の概要】
 ・教育相談委員会が中心となって、「ほっと」「Q-U」の実施と結果分析を行い、個人面談に生かすとともに、生徒理解を深める。

【ねらい】
 ・個人や学級のコミュニケーションスキルの強みと弱みについて理解させる。
 ・「ほっと」「Q-U」の結果分析をもとに、生徒同士のロールプレイによる演習を行い、規範意識を身に付けさせるとともに拒否や相談、援助要請などの意思決定と行動選択ができるようにする。

【活動の流れ】
 ①校内教育相談委員会を中心に、実施要領を作成する。
 ②関係機関と連絡調整する。
 ③データの分析について、「ほっと」は教育相談委員会、「Q-U」は担任が行う。



〈担任による教育相談〉



Q-U 分析シート (H28.11月実施) 締め切り 月 日 () ○机上の封筒まで
 ※イントラ Q-U-H28→28.11Q-U分析シート。プリント外または手書きで提出。

学級集団の背景	年 組	人数	名 (男子	名 女子	名)
問題と感じていること					
学級の公的なリーダー (番号と簡単な説明)					
学級で影響力の大きい・陰で仕切るような生徒 (番号と簡単な説明)					
態度や行動が気になる生徒					
プロットの位置が意外に感じる生徒					
学級内の小グループを形成する生徒					
面談を行ったほうがいいと考えられる生徒					



〈メンターとの面談〉

④教育相談委員会より全教職員に分析結果についての情報提供を行い、生徒理解を深める。
 ⑤さらに、個別面談を行い、生徒理解を深める。
 ⑥生徒同士でロールプレイによる演習を行う。
 ※デートDVに関するロールプレイの目的
 ・心や体を大切にす男女関係の構築
 ・男女交際に関するルールの理解
 ⑦年度末に実施方法等について検証・改善を行う。
 生徒の特性及びコミュニケーションの実態等を検証し、教育相談や指導の場面に生かす。



〈デートDVに関するロールプレイの様子〉

【本活動における成果等 (留意点含む)】
 ・「ほっと」や「Q-U」を計画的に実施し、データを効果的に活用したことにより、教員が学級の状況を具体的に把握するとともに、良好な集団づくりに積極的に関わるなど、教員の学級経営スキルを高めることができた。
 ・生徒同士のロールプレイによる演習を行ったことにより、規範意識が身に付くとともに、コミュニケーションにおける主体的な意思決定及び適切な行動選択ができる生徒が増えた。
 ・他者とのコミュニケーションが苦手な生徒に自己開示の大切さを学ばせることにより、コミュニケーション能力を高め、生徒同士及び生徒と教師間の信頼関係を深めることができた。

【学校名】北海道富川高等学校
【活動の名称】 コミュニケーションスキルの向上
【活用した資源】スクールカウンセラー活用事業 国立ひだか青少年自然の家
【対象学年と活動の時期】第1学年、通年

(項目ウー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
・外部講師（スクールカウンセラー）の方に協力をいただき、定期的にコミュニケーションスキルのトレーニングを行う。

【ねらい】
・落ち着いたクラスの雰囲気醸成し、よりよい人間関係を築き、全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるようにする。
・外部講師（スクールカウンセラー）の活用で、客観的にクラスの状況を見て、より専門的な観点からトレーニングを行うことにより、社会性なども含め、幅広く様々なスキルを身に付けさせる。

【活動の流れ】
①教員主体で年度の計画を作成し、実施プログラムを作成する。
[平成28年度実施計画]

4月13日	非言語のコミュニケーションを通して、相手の気持ちを理解する。
5月18日	トラストワークを体験し、互いにサポートする大切さを学ぶ。
6月14日	傾聴スキルトレーニングで、他者との関わり方を学ぶ。
9月16日	挨拶や話を聴くロールプレイを通し、社会性を身に付ける。
1月25日	人間関係づくりのワークショップを通して、協調性や信頼関係を養い、集団としてよりよい人間関係を構築する。
2月15日	プラスのストロークで、周囲に対する声かけや支え合える集団を目指す。



《外部講師による特別授業》



《挨拶のロールプレイ》

- ②外部講師（スクールカウンセラー）を依頼する。
③コミュニケーションスキルのトレーニングを行う。
(例：4月13日の非言語コミュニケーション)
・アイスブレイクとして、身振り手振りで誕生日を伝え合い、昇順に並ぶパースデーチェーンを行う。
・新聞パズルや伝言ゲームで、コミュニケーションを図る。



《アイスブレイクの様子》



《非言語のコミュニケーション》

- ④実施後はシェアリングを行い、生徒同士で気づきを共有する。
⑤学校のホームページへの掲載や、学校だよりや学級通信の活用により、当該活動について保護者にも理解を深めてもらう。



《実施後のシェアリング》

★コミュニケーションスキルトレーニング

4月13日(水)6校時 1年生のLH-Rでコミュニケーションスキルトレーニングを行いました。アイスブレイクとして言葉を使わずに、身振り手振りで誕生日を伝え合い昇順に並ぶパースデーチェーンを行い、その後新聞パズルや伝言ゲームを行いました。初めて経験した生徒も多く、最初は戸惑っているようでしたが、慣れてくるとゲームを通じてのコミュニケーションを楽しんでいたようです。

★コミュニケーションスキルトレーニング

6月14日(水)3校時、1年生31名を対象とした特別授業を行いました。講師はスクールカウンセラーの小嶋氏。一部の友だちだけでなく、多くのクラスメイトと仲良くなって、みんなで協力して学校生活を送ってほしいとの願いで『自己紹介』の仕方を学び、実践しました。机をコの字型に並び、内側に男子、外側に女子が並び、葉書箱の『お見合い回転寿司』のように、1分程度で向き合った二人が自己紹介していくというものです。はじめは紙に書いた自己紹介文を相手に見せるだけ・・・という生徒もいましたが、慣れてきたら1分では話足りないくらい盛り上がっている様子もありました。

《ホームページ掲載》

【本活動における成果等（留意点含む）】
・年間を通して計画的にトレーニングを実施することにより、他者への気遣いや心遣い、他者への気持ちを理解しようとする生徒が増え、ねらいとするコミュニケーションスキルを身に付けさせることができた。
・専門性の高い外部講師の効果的なトレーニングにより、周囲の状況を配慮し行動できる生徒が増えた。

【学校名】北海道函館中部高等学校（定時制）
【活動の名称】 ソーシャルスキルトレーニング
【活用した資源】スクールカウンセラー（外部人材）
【対象学年と活動の時期】1～3年、通年

（項目イー観点① 居場所づくり）

【活動の概要】

- ・スクールカウンセラーの指導による構成的グループ・エンカウンターを実施し、人間関係形成能力やコミュニケーション能力の育成を図ることを目的とする。

【ねらい】

- ・高校入学後、できるだけ早い時期からエクササイズに取り組むことで、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力を育成する。

【活動の流れ】

- ① 教師が中心となり、スクールカウンセラーと連絡調整、打合せを行う。
- ② 生徒の実態を踏まえて、スクールカウンセラーが実施プログラムを決定する。



（1年生 ちぎり絵リレー）

※スクールカウンセラーが出す課題を、一筆書きのイメージで1枚の紙をちぎりながら、メンバー全員でリレーをして1つの形を完成させる。ルールやモラル、思いやりなどの意識を育成する。

対象となる生徒の実態等を踏まえた実施プログラムとなるように、事前に担任から情報を伝えておく。
実施後は、担任とスクールカウンセラーが生徒の活動の様子から気付いたことを情報交換し、今後の生徒指導やクラス経営の参考にする。



（2年生 ジェンガタワー）

※グループ全員で協力して、できるだけ高いジェンガタワーを完成させる。互いにアイデアを出し合い、他者の考えを尊重する意識や、協力して一つのことに取り組む意識を育成する。

（3年生 ストレスマネジメント）

※対人間の葛藤等のストレスに上手く対処するスキルを育成するトレーニングを3回に分けて行う。
どのような場面でどのようなストレスを感じるのか、これまでのストレス解消法の分析、ストレスの受け止め方や自分にあったストレス解消法等について、ペアワークを通して学び、対人関係に関わる能力を育成する。



【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・入学当初は同じクラスの生徒でも話しかけることができなかった生徒が、他の生徒と交流することができるようになるなど、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワークの大切さの理解など人間関係・社会形成能力が育成された。
- ・また、学年が進むにつれて、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、ストレスマネジメントなど自己理解・自己管理能力や主体性を身に付けられた。

【学校名】北海道上ノ国高等学校
【活動の名称】いじめ根絶討論会
【活用した資源】リーダー研修会
【対象学年と活動の時期】全校生徒、9月8日(木)

(項目イー観点②絆づくり)

【活動の概要】

- ・生徒会が企画・運営し、学年混合のグループに分かれ、ワークショップ形式でいじめ根絶に向けた全校討論会を開催する。

【ねらい】

- ・2年間の活動の成果として前年度に採択した「上ノ国高校いじめ根絶宣言」を全校生徒で確認、継承する。
- ・からかい、悪口、ネットへの書き込みによる嫌がらせ等、人間関係の危機的状況の対応能力を育成する。
- ・異学年との交流を体験させ、人間関係形成能力を育成する。

【活動の流れ】

1 事前準備

- (1) 生徒会執行部員がリーダー研修への参加等をおしていじめについての理解を深める。
- (2) 生徒会執行部員が、討論会の要領を決定する。
- (3) 生徒会担当教員の意見をもとに討論会での各グループリーダーを選出、執行部役員が活動の説明をして目標をリーダーと共有し、リハーサルを行う。

2 当日

- (1) 全校生徒が学年混合の10班に分かれて、自己紹介やアイスブレイクで活動を始める。
- (2) 生徒会長が活動の趣旨と注意事項を説明する。
- (3) 活動①「いじめのない学校であり続けるために、私たちができること」について全校生徒が個々の考えを付箋に書く。(KJ法)
- (4) 全校生徒が付箋に書いた自分の考えを、順番に班内で発表する。(1人当たり1分程度)
- (5) 各グループは、個人の考えを「効きめ」と「実現難易度」の観点からまとめる。
- (6) リーダーがグループのまとめを発表し、全体で共有する。
- (7) 活動②「いざというときのため…自分のために、誰かのために！」について、生徒会執行部員が活動の内容を説明する。
- (8) 全校生徒が個々の考えをワークシートに記入する。
- (9) 各グループで意見交換をする。(発言は1人当たり30秒程度)
- (10) 意見交換をふまえ、生徒個々が「自分ために」か「誰かのために」のうち1つを選び、カードに自分のできることを記入する。
- (11) 大木のイラストを下絵とした模造紙に、全校生徒がカードを貼りつけ「いざというときの木」を完成させる。
- (12) 閉会(校長講評、生徒会副会長からの言葉)

3 事後

- (1) 全校生徒は振り返りシートに活動の感想や考えたことなどを記入して執行部に提出する。
- (2) 執行部は活動の評価と反省を行い、代議員会で公表する。



生徒の感想

- いじめを起こさないための方法は、いじめについて考え続けることが一番ではないかと思った。
- これからは人の良いところを見つける意識をもち、一人ひとりを尊重しようと思った。
- グループリーダーの話をきちんと聞いてくれて助けられたし、真剣に考えてくれたので良かった。

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・2年間の活動で生徒主体で作上げた「いじめ根絶宣言」の確認と継承の場とすることができた。
- ・いじめが起きた時の打開策を想定することで、未然防止の意識を全校生徒で共有することができた。
- ・学年混合グループの討論をとおして人間関係形成能力が養われた。